

進路だより

大阪市立築港中学校

キャリア教育担当

3年生用

No.7

1学期末懇談用



夏休みに色々な学校の情報を集めよう。

1学期の期末懇談が始まりました。2学期に入ったらそろそろ進学先（私立、公立）を具体的に考えていかなければなりません。夏休みに高校の情報を集めておきましょう。これから様々な説明会が開かれます。時間があればお家の人と積極的に参加してください。

それとともに各学校、オープンスクール、体験入学やクラブの体験入部も行われます。交通経路、学校の雰囲気、授業の様子など知ることができる貴重な機会です。ぜひ、夏休みの間に積極的に参加しましょう。（懇談時に私立高校の冊子、大阪府公立高校進学府フェアのプリントを配布します。）

大阪府立高等学校のアドミッションポリシーと調査書とテスト配点の比率が発表されました。

アドミッションポリシーとは？

その高校が求めている生徒像、期待する生徒の姿を示したもの。受験生にとって、志望校を決定する大きな判断材料となる。

一般選抜、特別選抜（実技検査のある高校）
→ ボーダーゾーン内の生徒のうち、自己申告書、及び調査書の「活動/行動の記録」の記載内容により、その高校のアドミッションポリシーに極めて合致する者を総合点の順位に関わらず優先的に合格とする。

出願時に提出する自己申告書

高校を受検するときに、自分が中学校生活で学んできたこと、高校へ進学して学習したいこと、将来に対する展望などを細かく書きます。

当然、受検する学校のアドミッションポリシーを踏まえながら、中身を考えなければなりません。

自分の将来に対する考え方、高校進学に関する心構えが全て問われるわけです。

しっかりこの夏休みに考えて書く練習をしておいてください。

公立高校の問題の種類と調査書と当日のテストの倍率

- ・特別選抜（A,B 問題）
- ・一般選抜（A,B,C 問題）

自分の志望校を調べてみましょう。

国語・数学・英語に関して各高校が選べるようになっていきます。A（基礎的問題）B（標準的問題）C（発展的問題）
・公立入試の可否の判定の評定と当日のテストの比率が
I（0.6:1.4）II（0.8:1.2）III（1.0:1.0）IV（1.2:0.8）
V（1.4:0.6）の四種類があります。ほとんど全日制はI、II、IIIのいずれかの比率です。

国語の入試に作文はなくなりますが、「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。」「論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。」が問題の中にあります。

夏休みの学習に役立てよう

平成26年度 大阪府 公立高等学校入試
各教科の結果分析から

具体的に学習すること

国語 ・ 文章を読み取る力が不足している。しっかり本文を読ん

で内容を理解すること。問題文を読んで問題を理解することも必要。・古文では書かれている内容に対して正しく理解することが必要。古典に関心を持ち、古文を理解する基礎を身につける。・作文や文章で答える問題は漢字、語句などを正しく書ける力が不足している。書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすることが大切。

- ・長文の問題をしっかりと読んで取り組む。
- ・漢字や語句を書いて身につける。
- ・その漢字や語句を使って文章を書く。
- ・古文の問題に取り組む。

数学 ・ 数学の基礎的な考え方や計算の力が不足している。

- ・文章題では考えたり、答えを出すまでの途中を説明したりすることができていない。問題文の内容を正確に理解する力が不足している。

- ・基礎的な問題をやって数学的な考え方を身につける。
- ・簡単な文章題などもしっかり考えて取り組む。

英語 ・ 基本的な単語や文法がわかっていない。単語を並べ替

- える問題ができていない。
- ・日本語になおしたり、英語で書いたりする問題ができていない。
- ・リスニングはよくできている。「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく学習して実際使える英語を身につける。

- ・文法の基本的な例文を理解し覚える。
- ・英文を日本語に訳したり、英作文に取り組む。
- ・単語を覚える。

社会 ・ 歴史的分野では苦手な時代がある。

- ・公民的分野では用語を覚えていない。教科書に出てくる用語を正しく理解し漢字で書けるようにする。
- ・地理的分野ではグラフなどの資料を活用して考える問題ができていない。
- ・様々な資料を活用して総合的に答えを出す力が必要。

- ・歴史は大まかな流れをしっかりと学習する。
- ・公民では用語を学習する。
- ・全分野総合的な問題に取り組む。

理科 ・ 実験結果などの複数の資料・出来事から基本的な知識を

使って考えて答えを出す問題ができていない。

- ・宇宙空間での惑星の位置関係など空間をイメージする問題ができていない。
- ・基本的な理科の知識や考え方を身につけることともにそれをもとに考えて新たな問題を解いていこうという姿勢が大切。

- ・基礎的な事柄を組み合わせで解く問題にじっくり取り組む。
- ・天体をしっかりと復習する。
- ・様々な問題に取り組む。